

取 扱 説 明 書



富士精密電機株式会社
FUJI SEIMITSU DENKI CO.,LTD.

本 社 〒153-0063 東京都目黒区目黒 2 - 1 5 - 1 4
TEL 03 (3716) - 3441 (代表)
FAX 03 (3716) - 3820

静岡営業所 〒431-0431 静岡県湖西市鷺津 1 0 4 9 - 1 6
TEL 053 (576) - 0093 (代表)
FAX 053 (576) - 4722

※はじめに

- ◆ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読み下さい。お読みになった後も装置の近くの見やすいところに大切に保存して下さい。
- ◆製品の仕様、外観、性能は改良のため予告なく変更されることがあります。また、本書に記載された内容も予告なく変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※保証及び責任の範囲について

- ◆本装置の保証期間はご購入頂いた日から1年間です。
- ◆下記のような場合には、保証期間中であっても有償修理となりますので、あらかじめご了承ください。
 - 誤操作による故障、または損傷。
 - 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変による故障、または損傷
 - 不適切な環境での使用による故障、または損傷
 - 納品後に本体落下、輸送による故障、または損傷
 - 弊社以外での修理、または改造をした場合。
- ◆本書に記載した内容は慎重に検討していますが、万一その内容に不備があった場合にはご容赦願います。
- ◆この取扱説明書に記載されている注意事項や操作方法を守らなかった結果に基づく損害につきましては、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。

安全上のご注意

- ご使用の前にこの安全上の注意をよくお読みの上、正しくお使い下さい
- ここに示した注意事項は、計器を正しくお使い頂、あなたや他の人々の危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は危害や損害の大きさと切迫の度合いを明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「危険」「警告」「注意」の3つに区分しています。いずれも安全に関する内容ですので、必ず守って下さい。

危険：人が死亡又は重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容

警告：人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容

注意：人が損傷を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容

 危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

 禁止の行為であることを告げるものです。

 行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

警告	修理者以外の方は絶対に分解したり修理改造は行わないで下さい。感電や損傷の恐れがあります。	
	点検や修理の際は必ず電源スイッチや警報スイッチを切ってください。感電や誤動作の原因になります。	
	アースは確実に配線して下さい。故障や漏電のとき、感電する恐れがあります。	
	配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って、正しく行って下さい。誤った配線工事は、感電や火災の原因となります。	
注意	長期間ご使用にならないときは、必ず電源スイッチを切ってください。絶縁劣化による感電や漏電の原因となります。	
	運転中「計器」表面スイッチ、ボリューム「裏面」端子台等さわらないで下さい。誤動作の原因となります。	
	計器に異常が見られた場合は、事故防止のため電源スイッチを切り、ご注文先に必ず連絡し点検、修理をご依頼下さい。	

※記載事項に従わない場合

本書に記載されている事項に対する警告に従わない場合、弊社はいかなる責務に付いても責任を負いません。

目次

1. 概 要	2
2. 仕 様	2
2.1. 計器の仕様	2
2.2. 電極部の仕様	2
3. 構造	3
3.1. 外観図	3
3.1.1. 計器外観図	3
3.1.2. 電極外観図	3
3.2. 各部の機能	4
4. 設置方法	5
4.1. 設置場所	5
4.2. 計器の取り付け方法	5
4.3. 電極の設置方法	6
4.3.1. C P - 4 型電極の取り付け	6
4.3.2. S C P - 4 A 型電極の取り付け	7
5. 計器の配線方法	8
5.1. 電源の接続方法	8
5.2. 警報接点出力の配線方法	8
5.3. 接点構成図	8
6. 動作及び運転	9
6.1. 運転前の確認	9
6.2. 警報設定	9
6.2.1. 警報設定の方法	9
6.3. 警報動作	9
6.4. 警報動作幅 (DIF)	9
6.4.1. 警報設定の方法	10
6.5. 使用上の注意	10
7. 保 守	11
7.1. 電極の保守	11
7.1.1. 電極の洗浄	11
7.2. 校正	11
8. 故障の発見と対策	12
9. 参考資料	13

1. 概 要

本器は簡易型の交流4電極方式の液体電導度調節計です。用水や排水の連続管理に、また警報回路が内蔵されていますので弁の自動開閉、薬剤注入制御も可能で各種工業プラント用として最適です。

2. 仕 様

2.1. 計器の仕様

(1)測定原理	交流4電極方式
(2)測定方法	直接浸漬連続指示
(3)測定範囲	0～199.9mS/m又は0～1999mS/m (0～1999 μ S/cm又は0～19.99mS/cm)
(4)表 示	デジタル指示
(5)繰返し性 (検出器含まず)	フルスケールの $\pm 1\%$
(6)電 源	AC100V/200V $\pm 10\%$ 50/60Hz
(7)警 報	上限のみ 接点構成 1ab 接点容量 AC250V5A (抵抗負荷)
(8)温度補償	温度補償あり 温度補償範囲5～45℃ (電極による)
(9)本体構造	取り付け金具にてねじ止め、又はパネル取付
(10)質 量	約0.6kg
(11)使用温度	計器周囲温度 0～50℃

2.2. 電極部の仕様

(1)型 式	CP-4	SCP-4A
(2)材 質	本体 PVC 電極 titanium	本体 P.P 電極 titanium
(3)使用温度	0～60℃	0～60℃
(4)取付方式	フランジ式 JIS5K50A 又は、投げ込み式	配管ねじ込み式 R3/4
(5)ケーブル長	標準5m又は10m	
(6)接続方式	本体一体構造	防水コネクタ
(7)温度素子	薄膜抵抗 2.179k Ω	at25℃
(8)質 量	約0.1kg (ケーブル除く)	

3. 構造

3.1. 外観図

3.1.1. 計器外観図

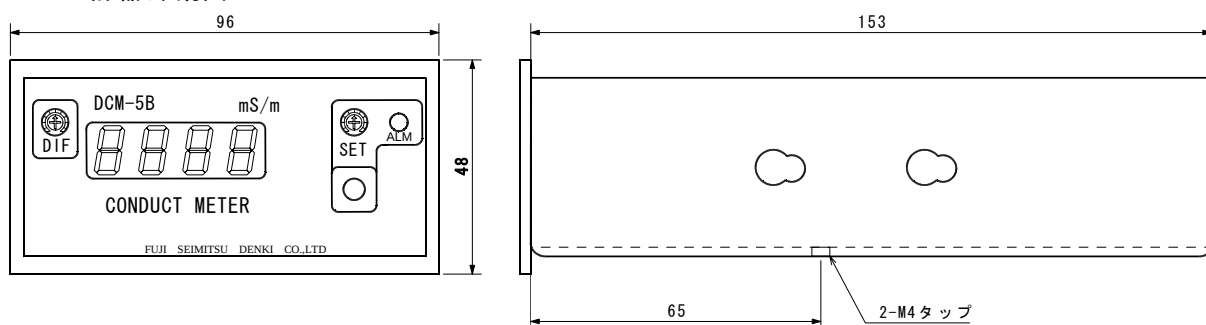


図3.1.1

3.1.2. 電極外観図

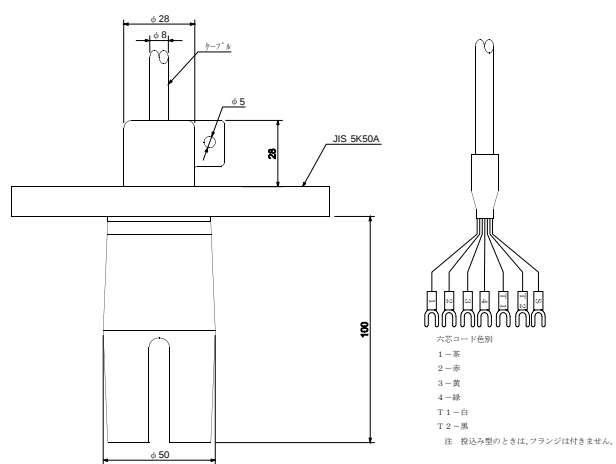


図3.1.2-1 CP-4形電極

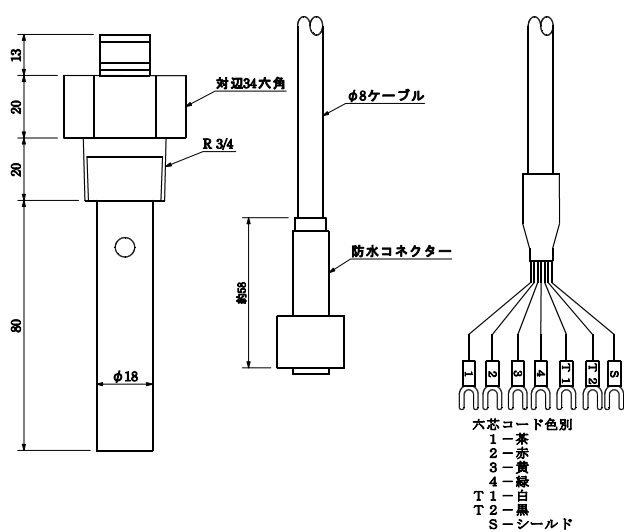
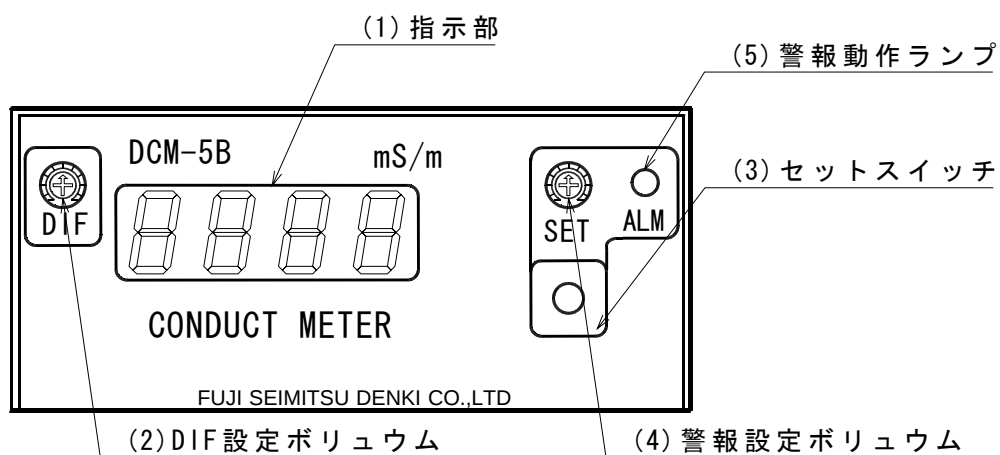


図3.1.2-2 SCP-4A形電極

3.2. 各部の機能



(1) 指示部

通常、測定値を指示します。

セットスイッチを押すと、警報設定値を指示します。

(2) DIF設定ボリューム

警報接点のDIF点を設定するためのボリュームです。

(3) セットスイッチ

警報設定値を指示させるスイッチです。警報設定を行うときにはこのスイッチを指先で押して行います。

(4) 警報設定ボリューム

警報接点の動作点を設定するためのボリュームです。

(5) 警報動作ランプ

測定値が設定値以上になると点灯します。

4. 設置方法

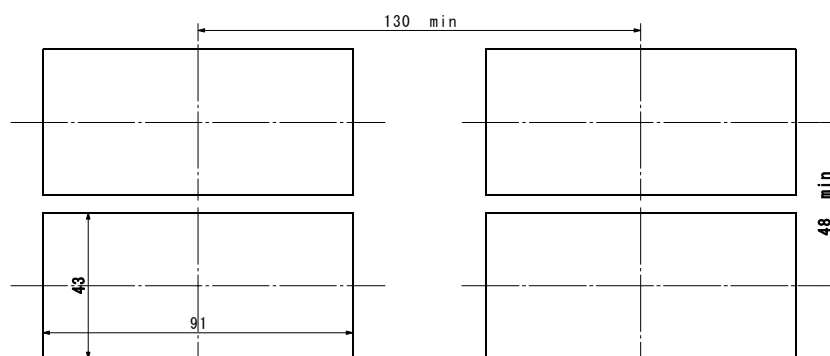
4.1. 設置場所

次の様な点を考慮の上、設置場所を選定して下さい。

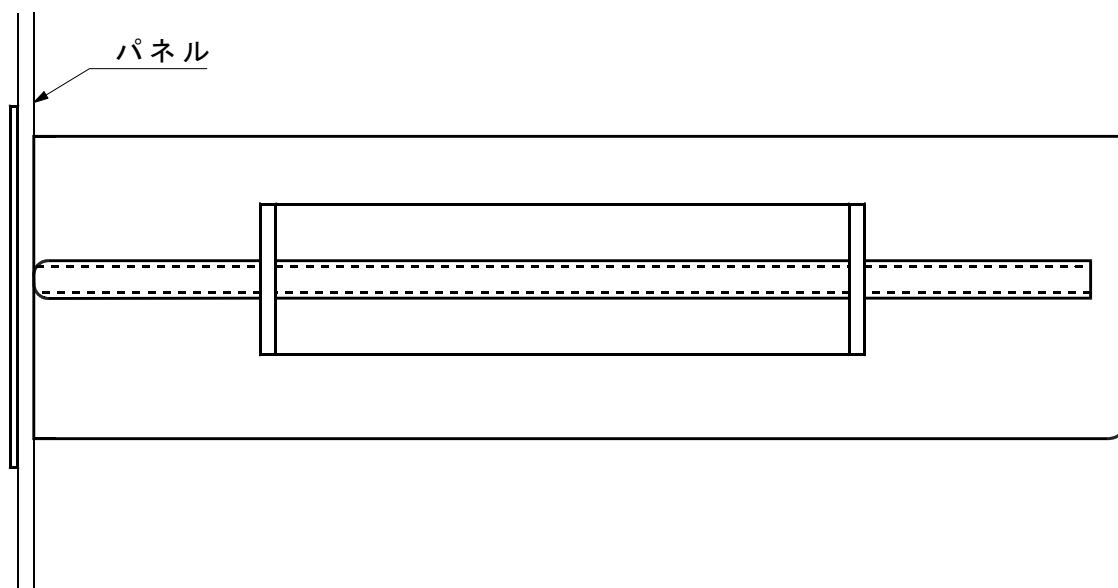
- (1) 温度変化の少ない場所。
- (2) 乾燥した場所。
- (3) 腐食性ガス、ほこりのない場所。
- (4) 水や薬品が計器にかからない場所。
- (5) 振動のない場所。
- (6) モーター等の誘導障害を及ぼす機器と離れている場所。
- (7) 直射日光の当たらない場所。
- (8) 保守点検等の容易な場所。

4.2. 計器の取り付け方法

パネルカット後、計器を添付取付金具にて取り付けて下さい。



穴開け寸法



4.3. 電極の設置方法

次のような点を考慮の上、設置場所を選定して下さい。

- (1) 激しい振動のない場所。
- (2) 腐食性ガス、ほこりのない場所。
- (3) 水や薬品が電極コネクター部に直接にかからない場所。
- (4) モーター等の誘導障害を及ぼす機器と離れている場所。
- (5) 保守点検等の容易な場所。
- (6) 被検液の液面が変動しても常に電極が液中にひたってる場所さい。
- (7) 流速の影響は余りありませんが、大きすぎると気泡が発生しやすく、少ないと指示の応答が遅くなります。適当な流量になるようにして下さい。

4.3.1. CP-4 型電極の取り付け

(1) フランジ型の取り付け例

CP-4 フランジ型

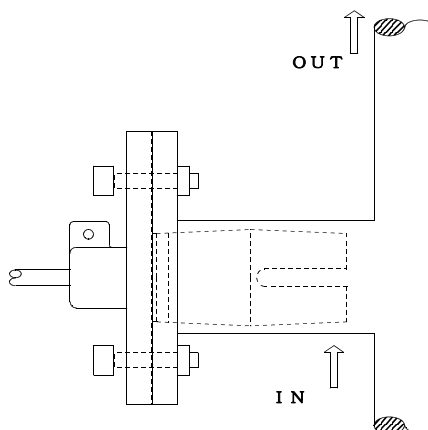


図4-1 CP-4 フランジ取り付け例

(2) 投込型の取り付け例

CP-4 投込型

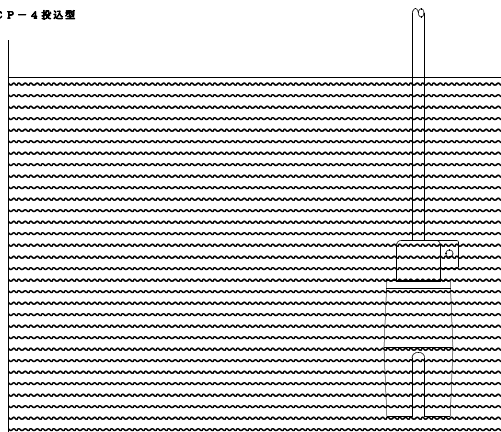


図4-2 投込型取り付け例

4.3.2. S C P - 4 A 型電極の取り付け

ネジ部にシールテープを巻き付け配管に取り付けて下さい。電極取り付けの一例を下図に示します。

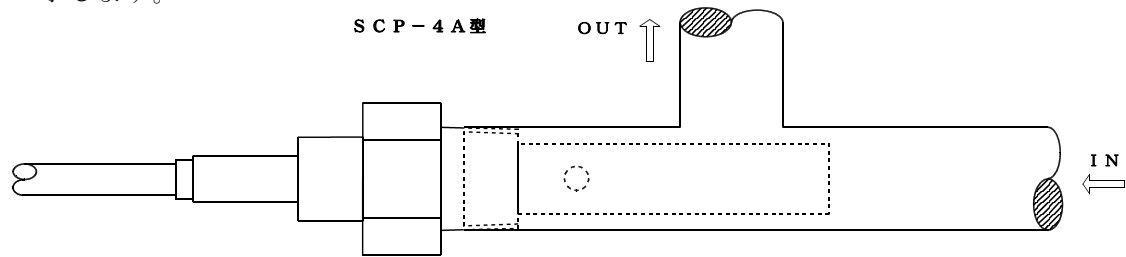


図4-3 S C P - 4 A 取り付け例

5. 計器の配線方法

5.1. 電源の接続方法

AC100Vの場合

AC100V 50/60Hzを計器裏面端子台の「100V」「0」端子に接続して下さい。

AC200Vの場合

AC200V 50/60Hzを計器裏面端子台の「200V」「0」端子に接続して下さい。

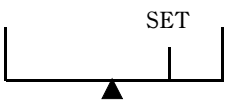
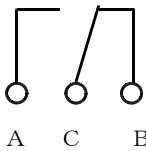
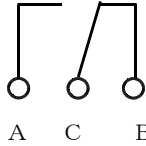
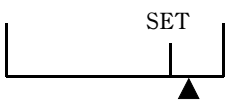
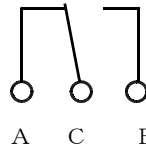
注意

- ◎AC100V端子にAC200Vを接続して通電すると、計器が焼損する恐れがあります。
- ◎AC電源をAC100V端子以外に接続して通電すると、計器が焼損する恐れがあります。
- ◎感電防止のためG端子は必ず大地に接地して下さい。
- ◎電源を供給している状態でケーブルの接続作業は危険です。
電源を切って行って下さい。

5.2. 警報接点出力の配線方法

警報接点として、ノーマルオープン(A)、ノーマルクローズ(B)接点を有しています。B接点をご使用の場合は、電源断でもクローズになりますのでご注意ください。

5.3. 接点構成図

設定値及び表示値	接点状態	電源OFF時接点状態
		
		

SET : 設定値
▲ : 測定値

注意

- ◎電源配線、警報接点と電極の配線は近付けない様にして下さい。
- ◎警報接点の接点容量をこえる負荷は、駆動しないで下さい。
- ◎警報接点の ON/OFF によりノイズが誘導することがあります。この様なときには、接点間にサージキラー (AC250V 120Ω +0.1μF程度) を取り付けて下さい。
- ◎電源を供給している状態でケーブルの接続作業は危険です。
電源を切って行って下さい。

6. 動作及び運転

6.1. 運転前の確認

本体配線、電極の取り付け、配線が終わりましたら次の点を確認して下さい。

- (1) 配線の間違い。
- (2) 電源電圧の確認。
- (3) 警報接点に容量以上の負荷が接続されていないか。

間違いがなければ電源を投入して下さい。計器は動作状態になります。

6.2. 警報設定

警報回路をご使用の場合は次の手順で行って下さい。

◎用意するもの 小型プラスドライバー

6.2.1. 警報設定の方法

- (1) セットスイッチを押すと、警報動作点を指示します。この状態で警報設置ボリュームを回して所期の値に設定します。
- (2) セットスイッチを離します。

以上で警報設定は終了です。

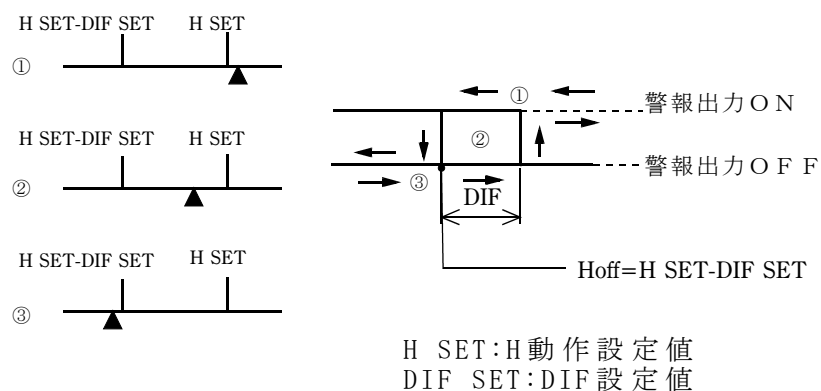
6.3. 警報動作

運転中に水質が変わり警報設定値を越えるとリレーが動作し、表面パネルの「ALM」ランプが点灯しリレーがONしたことを示します。水質が警報設定値以内にもどると[ALM]ランプが消灯しリレーがOFFになります。

6.4. 警報動作幅（DIF）

本器では警報接点出力の安定な動作を行うため、警報動作幅（D I F）を設定することができます。警報動作幅（D I F）の概要を次ぎに示します。

H動作の場合



6.4.1. 警報設定の方法

DIF設定ボリュームを回して所期の値に設定します。

6.5. 使用上の注意

- (1) 電極先端に気泡があると測定妨害となります。
- (2) 電極金属部は直接手で触れないようにして下さい。

7. 保 守

7.1. 電極の保守

7.1.1. 電極の洗浄

電極に汚れが付着しますと正しい測定をする事が出来ません。定期的に電極を洗浄して下さい。

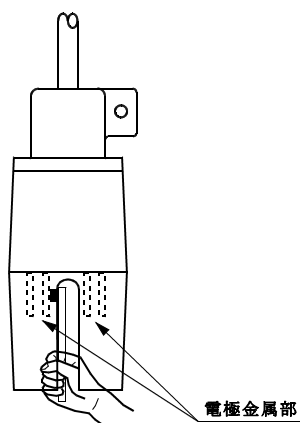
①用意するもの

- ◎ブラシまたは綿棒
- ◎中性洗剤

②洗浄方法

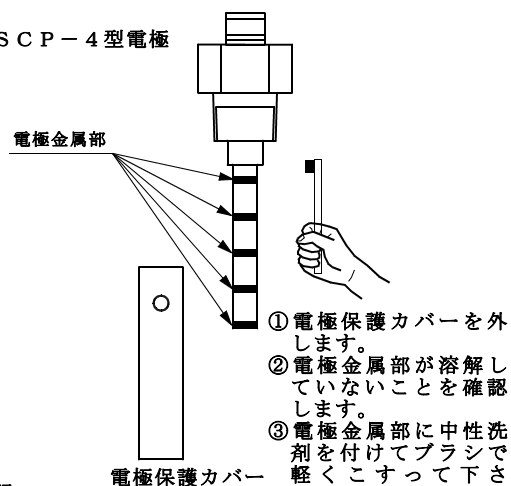
- ◎電極の金属部に中性洗剤を付けブラシまたは綿棒で軽くこすった後、清水で水洗いして下さい。

CP-4型電極



- ①電極金属部が溶解していないことを確認します。
- ②電極金属部に中性洗剤を付け軽くこすって下さい。
- ③電極を清水で洗浄します。

SCP-4型電極



- ①電極保護カバーを外します。
- ②電極金属部が溶解していないことを確認します。
- ③電極金属部に中性洗剤を付けてブラシで軽くこすって下さい。
- ④電極を清水で洗浄します。
- ⑤電極保護カバーを取り付けます。

7.2. 校正

標準導電率計と比較校正して下さい。

8. 故障の発見と対策

現 象	原 因	対 策
測定できない	計器本体異常 電極異常	納入業者に連絡 電極交換
電極を外しても指示が0にならない	計器本体の異常	納入業者に連絡
測定値が安定しない	電磁誘導 電極に気泡がたまっている	誘導線の除去 気泡を取除く
指示が振切れる	測定範囲をこえている 電極破損またはケーブルショート	測定値を確認 納入業者に連絡
指示が0のまま	電極破損またはケーブル断線	納入業者に連絡
測定値が合わない	電極の汚れ	P.11参照

9. 参考資料

溶液の温度特性について

溶液の電導度は温度が変わると変化します。ある温度を基準として電導度が変化する割合を示すのが温度係数で、単位は「%/℃」です。

一般的に温度係数は、強酸、強アルカリを除き 2 %/℃ の割合で増加するとみて良いといえます。しかし厳密に言うとも溶液の種類、濃度により異なってきます。

JISでは「水の試験では25℃の値を用いる」と規定しています

ある温度 t °C における電導度 S_t を 25°C に換算した電導度 S_{25} は次式で算出することができます。

$$S_{25} = \frac{S_t}{1 + \frac{(t - 25) \times 2}{100}} [\mu\text{S}/\text{cm}]$$